

ンディ)』の冊子にも掲載していただきました。

また、愛媛大学の竹下先生と進める愛媛消費者教育研究会主催のオンラインセミナーの中でも、「Clothes Loss フェアトレードを斜めにみて」というところで、フェアトレードはいい、だから進めようというだけではなく、何かフェアトレード商品を買えばいいの？ という、そういう問題ではないよねということで、いろいろな角度から話をしていきました。

そのときに、IKEUCHI・オーガニックという企業との連携で行いました。これはまだライブ配信で見ることができますので、ご興味のある方は、ぜひ見ていただけたらと思います。

ここからは、えひめグローバルネットワークが取り組んでいるアフリカ、モザンビークの活動です。それを中心としたESD 消費者市民教育についてお話ししたいと思います。

EGNの特徴的なESD モザンビークについて



- ・面積: 79.9万㎡ (日本の約2.1倍)
- ・首都: マプト 人口約108万人【2017国家統計院】
- ・人口: 約3,036万人【2019世銀統計】
- ・宗教: キリスト教約40% イスラム教約20% その他(伝統宗教)
- ・言語: ポルトガル語
- ・成人識字率: 58.8%【2014-2015 UNDP】
- ・出生時平均余命: 60.2歳【2019 UNDP】
- ・HIV感染率: 10.5%【2015 UNDP】
- ・国民総所得(GNI): 145億ドル【2018世銀統計】
- ・一人当たりGNI: 440ドル【2018世銀統計】
- ・人間開発指数(HDI): 180位【2019 UNDP】
- 1975年6月25日 ポルトガルから独立
- 1992年10月4日 モザンビーク内戦終結
- 2008年5月 **ゲブザ大統領が愛媛訪問**



えひめグローバルネットワークが活動しているところ

シニャングアニーネ村 Chinhanguanine (小さな入口という意味。推定人口5万人)

反政府軍の拠点があったため、内戦で大きな打撃を受け、駅・店・建物は崩壊。



シニャングアニーネ村

ガタガタ道
約50キロ・約2~4時間
天候により通れなくなる

モアンバ

舗装された道路
約50キロ・約1時間

首都マプト市は開発が進んでいるのに、シニャングアニーネ村は内戦が終わった後も、支援が届いていない。電気も水道もないまま。

先進国と開発途上国の格差、そして、開発途上国の都市部と農村部の格差は大きい！

活動拠点というのは、首都から100キロくらい離れたところ。その地域は、シニャングアニーネ村で首都から100キロ離れています。愛媛県でいくと、松山から宇和島くらいの距離で、電気も、水道も、ガスも、道もないということです。街は、このように開発されていますが村の様子は、10年前も10年後もほとんど変わらないのです。このような格差が取り残されているということを子どもたちとは一緒に考えていきます。



首都マプト
- 街の様子 -



- 村の様子 -

最初にモザンビークとかかわった理由というのが、実は平和構築のプロジェクトで、内戦が終わったあとの武器回収をするために松山から放置自転車を送っていました。放置自転車の問題があった松山市から自転車を送り続けることで、市内の放置自転車もかなり激減しております。

勉強会で出会った「モザンビークNGO・CCMの 「銃を鋤(くわ)へ」平和構築プロジェクト (不発弾処理・武器回収)の支援

2000~2012年で
合計7回、
放置自転車
660台を輸送。
モザンビークで
**銃と交換し、
平和な社会
づくりに貢献!**



松山市の
放置自転車は
市民活動への
無償提供が
可能に!
市内の
放置自転車は
減少!

この「銃を鋤へ」プロジェクトも、1つのフェアトレードともいえるのではないかと思います。銃と交換に自転車やミシンを交換してきました。それをアーティストが武器アートに変え、その武器アート展示が、今度は各地で展開されました。平和な社会づくりのためにということで、大阪、東京、高知などいろいろなところで、武器アート展を開催してきました。



モザンビークとのつながりについても冊子にまとめることができました。それは、またのちほどお伝えしますが、オリンピック・パラリンピックのホストタウンになったという経緯があります。



シニャングアニーネ村の様子です。公民館は2017年に建設し、塀や雨どいの設置を翌年に行い、市民力でこの活動をやり遂げました。現在、村のホワイトハウスと呼ばれて、心の復興に貢献しているといわれています。公民館では、勉強会・セミナーを行っております。道具の保管、道具が使える場として活用しています。

「武器ゼロ」から今度は「ごみゼロ」ということで、途上国によくあるプラスチックの問題。収集車は来ませんので、プラスチックを集めてペットボトルの中に積みこんで「エコブリック」というのをつくっています。このエコブリックは、南アフリカやフィリピン、インドネシアなど、海外のプラスチック問題に取り組む1つの解決策としても広がっています。



その後は、小学校を建設や、トイレを建設したり、またクリニックの修繕を行ったりという改善・修繕の取り組みを進めています。



昨年11月から12月にかけて、井戸の修理と研修を行い、新しい井戸を掘ってきました。こういう取り組みもしているのですが、改善や修繕だけではなく新しい取り組みとしてコミュニティフォレスト、「モリンガ」という栄養価の高いスーパーフードといわれるものをつくっています。これによって、地域の子どもの栄養改善につなげたいと考えています。



女性グループ、「トゥアナーノ」、フレンドシップという意味のグループが立ち上がり、一緒にやっているのがフェアトレード応援商品となります。このカプラナ布を使った商品開発については、文部科学省消費者教育推進のための調査研究、愛媛大学附属高校との連携・実践としても取り組んでまいりました。

女性グループ「トゥアナノ」が誕生！

「tuanano」は現地の言葉で「友情」の意味



クリミルダ
2009年に松山でESD研修。現在は3児の母。
エレナ夫人と一緒に、公民館でESD/SDGs刺繍
のユースリーダーとして活動。



エレナ
コミュニティ
リーダー夫人
現在、公民館で
ESD/SDGs刺繍
の指導者。

高校生とのコラボ
フェアトレード
応援商品
ついに誕生！



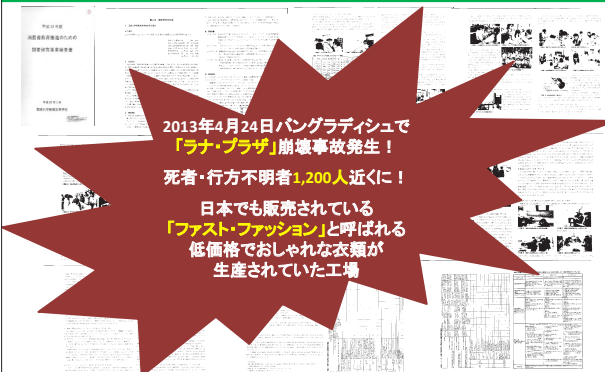
カプラナ布を使った商品開発

(フェアトレード・エシカル・コミュニティトレード) 2014年～今まで



この当時が、ちょうどバングラデシュで「ラナ・プラザ」の崩壊事件があったときです。日本でも「ファスト・ファッション」と呼ばれる、低価格でおしゃれな衣類が生産されていた工場でしたがこのような崩壊事故に遭い、消費者の意識はずいぶん変わったのではないかと思います。

文部科学省・消費者教育推進のための調査研究 愛媛大学附属高等学校と連携・実践(2013年度)

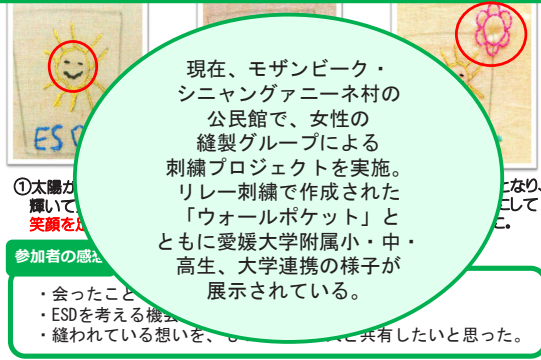


2013年4月24日/バングラデシュで
「ラナ・プラザ」崩壊事故発生！
死者・行方不明者1,200人近くに！
日本でも販売されている
「ファスト・ファッション」と呼ばれる
低価格でおしゃれな衣類が
生産されていた工場

それとともに、途上国の支援とつながる「ESD リレー刺繍」という取り組み、これによって、「つながり」というものを感じるような取り組みができました。現在このプロジェクトは、日本でつくったものを向こうに届けていて、取り組みの紹介が向こうに行って一巡しております。現在、「一村一品マーケット」ともつながりができて、今までの取り組みが教材にもなっていま

す。

ESDリレー刺繍



現在、モザンビーク・シニャングアニーネ村の公民館で、女性の縫製グループによる刺繍プロジェクトを実施。リレー刺繍で作成された「ウォールポケット」とともに愛媛大学附属小・中・高生、大学連携の様子が展示されている。

①太陽が輝いて笑顔を出している。

参加者の感想

- ・会ったこと
- ・ESDを考える機会
- ・縫われている想いを、

カプラナ布を使った「くるみボタン商品」 「一村一品マーケット」

2021年から成田・関西空港で販売開始！



モザンビークのホストタウンになったことで、IKEUCHI・オーガニックとの応援タオルというものもつくることができました。

モザンビーク・ホストタウン！

2018年 池田大使が知事表敬、モザンビークオリンピック委員会が愛媛県内視察
2019年 モリス大使、オリンピック委員会と愛媛県・松山市・新居浜市・伊予市が「東京オリンピック事前合宿に関する基本合意書」締結
2021年 オリンピック・パラリンピック選手団と事前事後交流を実施(オンライン交流含む)



IKEUCHI ORGANICと連携し、オーガニック&フェアトレードの「応援タオル」を作成

シニャングアニーネ村には、まだまだ課題があります。事故もあったり、スタッフが亡くなったり、サソリが出たり、字が書けない大人がいたり、中学校へ行けない子どもがいたり、このような現状を踏まえながらも子どもたちが応援してくれて、サッカーボールを送ると、そこで笑顔が生まれたり、愛媛大学附属高校の体操服の寄贈によって、リユース・リサイクルができたことによって、子どもたちから大きな笑顔が生まれ、この笑顔の力がパワフルで、大きな励みになっています。

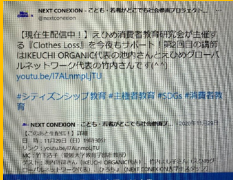
愛媛消費者教育研究会主催 第2回オンラインセミナー

Clothes Loss

- フェアトレードを斜めにみて -

IKEUCHI ORGANIC × えひめグローバルネットワーク
(Youtube配信: <https://www.youtube.com/watch?v=I7ALnmpLjTU>)
2020/11/29 にライブ配信 (現在も見れます!)

98%衣類を輸入している日本、フェアトレードを言えば良いのか？
IKEUCHI ORGANICの取り組みとえひめグローバルネットワークの取り組みから考えよう！




シニャングアニーネ村

電気・水道・ガスがなく
道路・建物は未整備
川にはワニが…

安全な水の確保は
難しい…

井戸1本では
足りない…

川で洗濯

水汲み

近くでも約1.5km



私たちが取り組んでいる消費者市民教育というところで行くと、地球市民教育やESD、消費者教育といったことを気付いてもらう、そういった学びを今度は行動につないでいくということ。そこにはNPOやNGOがかかわり、学校と連携し、市民活動、消費行動の変容へとつないでいきたいと考えています。

その中には、フェアトレードや、コミュニティトレード、エシカルトレードといった、人と人を、商品や顔が見える関係でつないでいくということを伝えております。何を選ぶか、それが誰の笑顔につながるか、それがキーワードなのかなと考えております。

新玉小学校寄贈のサッカーボールと 愛附高校の体操服でチームに笑顔が！



キーワードまとめ

気づき・学び(地球市民教育・ESD・消費者教育)
行動(NPO/NGO・市民活動・消費行動の変容へ)
フェアトレード・コミュニティトレード・エシカルトレード等



何を選ぶ？ 誰かの笑顔につながる？



私からの発表は以上です。これからも皆さんと一緒に消費者教育を進めていきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。